

事業推進部の役割について

事業推進部 部長 上野 憲孝



われわれ事業推進部は理事3名が担当し、その役割は主として、就業開拓・会員の増強を目的として活動しています。その他各種イベント、市の行事にも積極的に参加し、センターの運営の推進とともに、一方で会員の皆様と同様に各自就業もしています。

具体的な活動としては、月2回の入会説明会の開催と、月1回の新規就業開拓のための企業訪問、更には月1回の実業推進部会・開拓委員会を定期的に行っています。

その業務を遂行する中での問題点として、

- ① 少子高齢化が進む中、政府の働き方改革により各企業の定年延長等の要因もあり、入会希望者が鎌ヶ谷市のみならず横ばいまたは減少傾向にあるため、就業開拓活動にも影響を及ぼしています。
- ② 鎌ヶ谷市の求人情報は、公共では、ほぼ横ばい状況で推移し、民間では、大手企業・工業団地等もなく求人募集は非常に厳しい状況にあります。

会員の増加、就業機会の拡大はセンターの発展、社会貢献という目的達成のため、事業推進部は、役員・事務局と共に、シルバー人材センターの発展を目指して頑張っていく所存です。

会員の皆様の温かいご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

理事会報告

令和元年度第10回理事会を令和2年1月17日(金)午後1時30分から東初富公民館にて開催。以下の件について承認及び協議をしました。

I. 決議・承認事項

- (1) 令和元年度収支予算補正について
- (2) 会員の入会について(案)

II. 協議事項

- (1) 令和2年度事業計画書(案)基本方針について
- (2) 令和2年度予定表(案)について
- (3) その他
- (4)

III. 報告事項

- (1) 就業先企業に対しての新年度挨拶回りについて
- (2) 12月の実績報告について
- (3) 新規就業の紹介と退会者について
- (4) 各部会の事業報告について
- (5) その他

まだまだ寒いですが！冬の健康トラブルに注意！

1 気温も湿度も低くなる冬場は、感染症を引き起こしやすい季節です。また、体温が下がると体の抵抗力も低下し、いったん発症すると重症化する可能性があります。予防には外出後の「うがい・手洗い」、十分な休養とバランスの良い食事で免疫力をつけることが大切です。

2 冬場の「脱水症」にも注意が必要とされています。37度以上の発熱があったら早めに水を飲みましょう。また、ヒートショックは高齢者の室内での死因の1/4を占めるとされています。トイレや浴室など家の中の寒暖差をなくす工夫をしましょう。

健康に気をつけて冬を元気に乗り切りましょう！

「フレイル」って何？

「加齢により心身が老い衰えた状態のこと」と言われています。この状態になると、身体能力が低下し、病気やストレスなどに弱い状態になります。しかし、早く対策を取れば元の健常な状態に戻る可能性があり、シルバー人材センターで仕事をするのも有効な方法と言われています。

コミセン周辺めぐり (1)

普及・啓発部 理事 澤村 保夫



○鎌ヶ谷コミュニティセンターとその周辺(1)

鎌ヶ谷コミュニティセンターは、鎌ヶ谷大仏駅から徒歩2分、木下街道(市川印西線)を白井市方向に歩いて、鎌ヶ谷八幡神社の先の路地を入ったところにあります。昭和62年に設置され、50以上の団体・サークル・自治会などが活動しています。

木下街道は、行徳河岸(市川市)と木下河岸(印西市)とを結び、江戸と下総・常陸との往来に利用されていました。この間、9里(36^{キロ})、行徳・八幡・鎌ヶ谷・白井・大森・木下に宿場が置かれ、近世初期には「なま道鮮魚街道」と呼ばれていました。銚子、霞ヶ浦から川舟で運ばれた鮮魚を馬の背に乗せて江戸日本橋の魚市場に継走する主要な街道でした。また、「三社詣」(香取神宮・鹿島神宮・息栖神社)を往復する人々や常陸国麻生藩、下総国高岡藩、同小見川藩の藩主が参勤交代に利用していました。特に、江戸末期、15代将軍徳川慶喜の実父である水戸藩主徳川斉昭が江戸から水戸に帰国する際、鎌ヶ谷宿で昼食・休息をとるという大通行があり、一目その行列を見ようと老若男女で大混雑したということです。更に、俳人松尾芭蕉が弟子の曾良・宗波を伴って鹿島地方を訪ねた(1687年)折にも、鎌ヶ谷宿を通行したとのこと。その時の紀行文「鹿島詣」には、「かまがい原といふ所、ひろき野あり」と書き残されています。

鎌ヶ谷コミセンを出て大仏十字路を過ぎ、通称風間街道と別れる井草三叉路には蕉風復活に尽力した三級亭魚文の句碑(1764年建立)があります。正面に「ひとつ家へ 人を吹込む 枯れ野かな」、左右には「右木をろし道」「左中木戸道」と記されています。鎌ヶ谷コミセンの路地まで戻ると、正面に鎌ヶ谷大仏が見えます。今でこそ、ビルの陰に隠れて「どこにあるのですか」と聞かれるほどですが、造立された安永5年(1776年)当時は、多少の商家や旅籠屋があったものの、かまがい原と呼ばれるのどかな野原でした。そこに東大寺大仏と同様、塗金された大仏が黄金色に輝いていたのですから、道行く人はさぞかし手を合わせたことと思います。由来は、資産家であった福田文右衛門が両親、兄弟、子供を次々と喪う中、一族存亡の危機を感じて造立したと言われています。現在は駅名にも採用され、鎌ヶ谷市のシンボルとして広く市民に親しまれる存在となっています。また、同じ大仏墓地の中には戊辰戦争の戦火が鎌ヶ谷宿にまで広がっていたことを伺わせる史跡があります。新政府軍・佐土原藩(宮崎県)の藩士2名の墓です。江戸城明け渡しに反対する旧幕府軍が江戸を脱出、一部が市川・船橋に集結したため、鎌ヶ谷宿に陣を構えていた佐土原藩が船橋に攻め入り大規模な戦闘を繰り広げたとのこと。幕末の鎌ヶ谷宿は興奮と緊張の連続だったようです。 <参考:「鎌ヶ谷市史 中巻」、「鎌ヶ谷大仏とその仲間たち」ほか>

南部公民館ふれあいまつりで会員募集

3/1(日)10時00分~14時30分

南部小のブラスバンドで開会、太鼓や人形劇も楽しめます。当センターもブースを設け会員募集をします。

植木剪定講習会の開催

3/4(水)9:15~ 東初富公民館 座学、午後 市制記念公園 実技

3/5(木)8:50~(1日) 市制記念公園 実技

申込期間 : 2/17(月)~(定員(15名)に達した時点で締め切り)

植木班の増員が急務です。市内在住の60歳以上で植木剪定に興味のある人はふるってご応募ください。

令和2年1月度 事業実績	
会員数	529
稼働人員(派遣含む)	457
稼働率(派遣含む)	86.4%
契約金(月計)	15,636,051
契約金(累計)	188,028,573

(入会者)「新しい仲間です」

第3地区 3班 瀧本 藤夫

第1地区 2班 砂見 三男

男性 2名 合計 2名

(退会者)「お疲れさまでした」

男性 1名 合計 1名

令和2年1月14日現在